

●參 東洋史

及川儀右衛門著

本書は初めて東洋史を學ぶ人々の爲に、東洋人の社會生活の姿、民族活動の傾向、文化の潮流等につき概觀的に記述せむと企てたる著者が、その實際教授の經驗と教育實習の指導より得たる教訓を參考して編著したるものである。著者の東洋史に對する見解は國史の理解を深める爲に之が必要なりと謂ふのであつて、その見地より編述せられたるものである。全編六編五十七章より成り善く既發表の専門家の論著の要領を包羅集載し巻尾に索引を附して讀者の便に供してある。（菊版六九八頁、價三・〇〇 博文館發行）

●支那文學史概説

文學士 西澤 道寛著

從來の支那文學史に關する論著が學者文人の出卒年次を皇紀又は西曆紀元を以て示せるもの甚だ少きを憾み、又民衆文學即ち戯曲小説の記述少きを慨し、此の二方面の記述に力を加へたもので、全五編二十五章に分類し、その半は戯曲小説の説述に費してある。初學の者には手頃の參考書として好都合である。（菊版三三四頁 價三・五〇 東京市神田區表猿樂町二十四番地 同文社發行）〔以

上那波〕

●京都帝國大學考古圖錄

文學部陳列館考古圖錄

京都帝國大學文學部陳列館に藏せられてゐる考古學的標本の主要なるもの數百點を收めて圖錄とするものであつて、去る大正十一年の秋、皇后陛下大學行啓に際し陳列品室の台覽を辱うしたるを機として完成せられた圖錄は僅々數部に過ぎなかつたのこ其後年を閲する數年、蒐集せらるゝもの將に倍加するものがあつた。されば本圖錄は即ち此等の諸品を加へ版を新にし體容を改め、菊版形とし、圖葉百二十を以てされてゐる。内容を三部に分ち第一部日本及朝鮮發見品には石器時代、金石並用時代、原史時代、歴史時代及び朝鮮各時代の遺物を第二部支那發見品には先史時代及漢以前時代漢及六朝時代、唐時代、宋時代及以後とし、第三部諸外國發見品には舊石器時代古代埃及、古代希臘、古代西亞諸國等のものを羅せられてゐる。内容の一々に就いては茲に述べるまでもない此等の資料を通じて本邦始め諸外國の古代遺物に最も簡捷に親しむことが出来るものと云へる。（定價五圓、京都夷川寺町西入、桑名文星堂發行）〔島出〕